



—いのち、くらし、平和が大事！—

日本共産党京都市議会議員

山本 陽子

活動ニュース



VOL.86
2021年12月19日号

〈連絡先〉

日本共産党
山科区生活相談所
山科区西野大手先 8-8
☎ 595-8342

11月議会報告

鏡山保育所の廃止について

11月議会で、鏡山保育所を廃止する議案が提出されました。地域で信頼されている民間保育園の法人が、鏡山保育所を譲り受けたと願い出て、移管先の選定が進められ、結果的にその法人が移管先となりました。しかし、市営保育所がもっているセーフティネットの役割を放棄してよいものなのか？ 討論で述べました。



山本 陽子 議員
(共産党 山科区)

議 第128号「京都市保育所条例の一部を改正する条例の制定」について、反対の態度を表明していますので、日本共産党市会議員団を代表し理由をのべ討論します。

本議案は、山科区で唯一の市営保育所、京都

市鏡山保育所を廃止するものです。鏡山保育所は、昭和29年以来、山科区の保育行政におけるセーフティネットとして重要な役割を担ってきました。民間保育園の平均より多くの障害児を受け入れており、実際に、民間保育園では保育士確保が困難で半日しか保育できないと言われた子ども、最後は鏡山保育所が受け入れてきました。

民間移管先選定部会では、保護者から「障害のある子ども、障害のない子ども一緒になって良い保育がされている、鏡山保育所のような保育を継続してほしい」と発言がありました。長年多くの障害児を受け入れ、受け継がれてきた保育士の経験とチームワーク、そのノウハウがある市営保育所だからこそ、素晴らしい保育を実践してこられたのではないのでしょうか。

お迎えに来られたお母さんに鏡山保育所について聞くと「園舎は老朽化しているけれど、鏡山保育所の保育はとってもいいんです」と言われた言葉は、鏡山保育所が施設の豪華さではない、保護者や子ども達にとってなくてはならない大切な存在なのだということを物



語っています。お金では計れない市営保育所の存在価値、「公としての役割」を京都市自ら放棄しているのは大変残念であり、鏡山保育所の廃止は市民にとって京都市にとって大きな損失であると言わなければなりません。

そもそも、京都市は、市営保育所の「公としての役割について不断の検証を行い、民間移管に取り組む」と言われてきましたが、委員会でも議論したように当局は「検証」の内容は示せない「出せない」の一点張りで、移管すれば終わりと言わんばかりのあまりにも無責任な態度です。

また、議案審議では、理事者が「施設改修に対し、民間保育園には補助があるが公営には補助がない」ことを、市営保育所の廃止の理由とされました。しかし、公営の場合には、交付税措置されることからその理由自体も納得できません。

京都市は、この7年間25か所あった市営保育所を12カ所も廃止をしてきたうえに、さらなる民間移管をすすめ、市営保育所のセーフティネットとしての役割も放棄しようとしています。一方で、民間保育園に対しても行財政改革の名の下に、厳しい対応を迫ろうとしています。

子どもや市民にとって最善の利益を守るための公の役割は何なのか、それは「市営の責任を果たすことである」と、京都市に目を覚まさせるような議会の態度を示そうではありませんか。以上、同僚議員の皆様の賛同を求めて討論とします。

北陸新幹線京都延伸問題と 京都府政について考える市民集会に参加

北 陸新幹線、敦賀—新大阪間を小浜から京都へ抜けるルートは、その8割が新幹線が地下のトンネルを走るというものです。それが、いまだに国の政策ではなくて、与党プロジェクトで決めた内容として進んでいます。

環境影響調査や説明会の動きが活発なのは京北、左京区北白川、静原、南区吉祥院、久世。水がめと言われる京都の盆地に、地下40メートルに

シールドマシンで穴を掘る無謀な計画です。残土の処理計画もなし、南海トラフ巨大地震の影響は加味されていないなど、ずさんな計画です。

2兆1千億円もかかる巨大大事業に京都府知事も京都市長も与党プロジェクトと一緒に旗を振っていますがそれでいいの？ 来年4月10日投票の京都府知事選挙の大争点です！



ヨココの

ママチャリ子育て日記

算数教室の再開

退職教員の先生にお世話になり、勉強の苦手な小学校五年生が集まって、算数を教えて頂いています。

うちの弟君は「勉強は苦手やけど、がんばってついていかなければ」と思っているようです。参加している子を見てみると、みんな、そんなふうにはなげな子どもたちばかりです。一緒にがんばっている女の子は「宿題ができてないから休み時間にやるように言われたけど、休み時間にはしたくないし、算数教室で教えてもらって、たまっていた宿題できてよかった」と言っていました。うちの息子も、小数点の割り算が一人ではややこしくてわからないけれど、お友達が粘り強く教えてくれて、それに応えてがんばっていました。

なんかね、こんなけなげな子どもたちの気持ちに込める学校教育になつていないの？ と、いつも思うのです。四〇人近いクラスで、あつという間に過ぎてしまう授業では、一人ひとりの学びは支えられませんか。先生もできる限りで、とがんばるしかない現実を感じます。だからこそ、一クラスを少人数にしないと、勉強できない子は置いてきぼりです。

放課後の算数教室はありがたい！ T先生、Y先生、本当にありがとうございます。

